

日刊木材新聞

環境パイル適用範囲広がり拡販に弾み

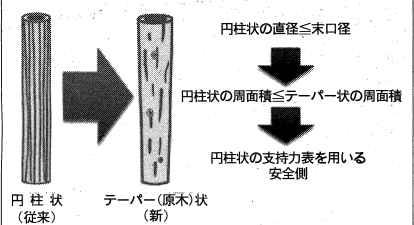
テーパースタ状態で施工が可能に

兼松日産農林

打ち込むだけでなく、6〜12層埋め込む作業となるが、連結部分も今回、より簡素化した継ぎ手を開発した。同

兼松日産農林(東京都、高崎實社長)は「環境パイル」(木杭を用いた地盤補強)の普及拡大を一層進めるため、テーパースタ(原木)の地盤補強材を追加、同補強材で認証(日本建築総合試験所の建築技術性能証明)を取得した。これにより、従来の円柱状から、素材のままに近い形で原料運用が可能になり、円柱加工費用の削減につながる。新しいテーパースタ(原木、未口徑14号上)の環境パイルは2月から発売・施工する。

月間100棟ペースを超えて需要量が飛躍的に増えた。このため、素材供給では、テーパースタ原木に杉だけでなく、新たな樹種としてトド松を追加、北海道で供給可能な樹種としてトド松が増えたことからも、環境パイル工法の適用範囲が拡大し、全国拡販への手応えを感じている。



木材を円柱状(径級)のが、同社の環境パイル加工が必要で、このは未口・元口14号)にル。同パイルを専用機加工費用が計上されて成型加工して防腐・防や特殊な継ぎ手で地盤した。新しいテーパースタの地盤補強材は、室内試に耐久性を向上させた技術が環境パイル工法だ。

この工法で第三者証明(日本建築総合試験所)を設計法を確立した。取得するに、木材を円柱に成形加工し設計数値を確立する必要があるため、すべて同一形状にしなければならなかった。円柱成形するには、皮むき工程と円

実施工データから原木等、1000件以上のこの工法で第三者証明(日本建築総合試験所)を設計法を確立した。取得するに、木材を円柱に成形加工し設計数値を確立する必要があるため、すべて同一形状にしなければならなかった。円柱成形するには、皮むき工程と円

2013年 新春特集